

なにわ大賞に想う

なにわ名物 開発研究会 NEWS

人間、いくつ何十になっても、褒められるのは嬉しいものです。褒美をもらうと顔がほころびます。

なぜ嬉しいのか。理由は簡単です。行為を、行動を、あるいは仕事を含む自分の存在価値そのものを、認められることに結び付くからです。それまでは自己満足に過ぎないと思われていたものが、世間に広く認知されるからです。

例えば国家や各自治体が主催する褒美の類いは、各分野にわたって網羅されています。結構なことですが。しかし、なにわ大賞は違います。大阪の町衆のエネルギーの中から生まれた賞であり、恐らく公の感覚では見えないだろうと危惧される対象にまで、きめ細かく目配りが行き届いています。一般庶民の手による、まさに草の根的な褒賞です。その決定的な違いが大きな誇りであり、賞の力にも成り得ているのです。

第一回目の大賞の受賞者！「あんがいがおまる」さんは、受賞以来、ますます精神的に演劇活動を展開しています。第二回目の「田辺寄席世話人会」も三十余年の長期にわたる地域寄席の記録を更新中です。第三回目の「上田合金株式会社」の上田さんも古代の銅鐸、銅鏡、銅剣の復元に精魂傾けておられます。第四回目の「上方浮世絵館」はミナミの新名所としての評判が日々高まっています。第五回目の「日本

歌劇団」は新たなOSKとして生まれ変わり、着実に歩み始めました。第七回目の「熟塾」は一段と活発な文化活動を繰り広げています。一人、第六回目の「中之島を守る会」「中之島まつり」の新政延さんは、残念ながら昨年、逝去されました。

大賞のみならず、準大賞、及び特別賞、それに第四回目から加わった「21世紀協会特別賞」の受賞の皆さんも、それぞれの分野で健闘しておられます。また、昨年は「石浜恒夫記念賞」も設けられ、なにわ大賞に重みと深みが増しました。

褒められて嬉しくなると、人間、「よし、もっと頑張ろう」という気力が湧いてきます。元気が出ます。その気力が、元気が集まり、発酵して、爆発して、大阪の町を奮い立たせる活力を生むのです。ささやかながらもこの賞は、その手伝いを、縁の下の力持ちをしているのです。過去七年の実績を振り返るとき、それは望外の効果をもたらさせているようだと、自負しています。

さあ、今年も誰か、どれが選ばれるか、期待は絶大です。

選考委員会委員長

難波利三


(六月三十日 記)



▲直木賞作家・難波利三先生

<第17号>
2005年7月28日発行

発行
なにわ名物開発研究会
編集 広報部



QRコード
機種によっては読み取れない場合もございます。

部会活動などにお使い下さい

- 本部
大阪市中央区難波1-7-2
SENOYAビル3F
TEL・FAX (06)6213-5554
<http://www.naniwa-meibutsu.com/>
- 事務局 (会議や諸事連絡)
大阪市中央区本町橋2-23
第七松屋ビル1231
TEL (06) 6947-5260
FAX (06) 6947-5254

入会について

- 入会金■
10,000円 〈正会員〉
5,000円 〈協力会員〉
- 年会費■
36,000円 〈正会員〉
12,000円 〈協力会員〉

R100 (古紙100%の再生紙を使用しています。)

速報 第8回受賞

- 大賞
からほり倶楽部
(長屋再生・まちアート・直木三五記念館)
- 準大賞
福澤 幸雄 (バイゴマ遊びの普及)
村西 徳子 (伝統藍染・河内木綿)
- (財)大阪21世紀協会賞
中谷 ノボル (水辺の賑わいづくり)
- 石浜恒夫記念賞
演技集団 芝居小舎 (関西演劇人の育成)
- 特別賞
山田 良一 (ピンドールによるまちづくり)
中西ファミリー
(多彩な芸によるボランティア活動)
白井 達郎 (万博ミュージアム)
吉田 明子 (藤井寺婦人体操クラブ)
難波 りんご (なにわ伝統野菜復活の会)

※敬称略



▲7月某日、最終選考会が開催され、第8回なにわ大賞が決定しました。会場協力ノ道頓堀くいだおれ

5月
特別例会
5/23

総会・特別講演会・ ネットワークパーティー

いよいよスタート新体制 パワフル感動・征平さん

恒例の会場「道頓堀ホテル」で開催。100名強の方々の参加を得て、盛況裏に終了致しました。



▲代表幹事 野村 育郎
度総会。野村代表幹事・議長のもと進められ、上

程された報告事項、審議事項の全てが全員の賛同を得、了解・承認されました。17年度は、副代表幹事を従来の3名から4名体制に強化・充実するとともに、各部会の担当部長、幹事も大幅に替わり、新しい陣立てでの運営となります。新たな期待が寄せられるものです。



▲第一部司会 島野 渉 副代表

【第一部】 記念講演会。「命知らずのアナウンサー」の異名を持つ桑原征平氏に、「元氣だせ大阪」のテーマで講演をお願いしました。厳しい視聴者争奪戦の中で生きるアナウンサー業の過酷さ、辛さ、楽しさ等を交えながら、

国内・海外50数カ国に及ぶ取材先でのエピソード・裏話を存分に聴かせてくださいました。息をつく間も無いほどの超パワフルな語りは、まさに、聴く者を圧倒する迫力。興味・驚き・感嘆の思いで、身震いを感じながら聴かせて



▲特別講師 桑原 征平氏

貰いました。さらに、大阪の復興・環境破壊防止に寄せる思いは、熱い感動を与えてくれるものでした。お人柄の出た、印象強い講演に心より感謝いたします。昨年の西村晃先生、今年の桑原征平さんと続き、来年はどなたにお願いするか、今から頭の痛い思いです。

【第三部】 ネットワーク

パーティー。今回は100名を越える皆様方のご参加を得



▲第二部司会 灰谷 幸 副代表

て、楽しく賑やかなパーティーになりました。新たな出会い、交流の場となり、ネットワークパーティーの目的を十二分に達せられたものと感謝いたします。最後は、恒例となりました、小南陵師匠の大阪締めで参加者の気持ちもひとつになりました。

開始直前に激しい雷雨に見舞われ、ズブヌレで駆けつけてくださった方々、大阪府・大阪市・商工会議所の方々をはじめとして、ご参加くださった皆様、この誌上で御礼を申し上げます。ありがとうございました。

文/事務局長 大熊章悦



学生時代、 映画青年でした

30年以上昔の話です。私の学生時代は学生運動の嵐が吹き荒れていた60年代後半。映画・演劇でもイデオロギーや不条理劇がもてはやされていました。しかし私は、ノンポリならぬアン・ポリ。政治や社会変革に無関心ではないが、生きる上でそれ以上に大切なものは愛と、アンチポリティカル・ロマンリベラリストを標榜。映画や演劇も、泣いて笑って怒ってこそ名作。娯楽・エンターテイメントでなければ価値がないと思っていました。映画を年間30本以上見た年もあり、まさに映画青年。卒業して仕事に就き、結婚してからは年に数本しか見なくなり、それから引退されています。

『夫婦善哉』で知られる大阪生まれの天逝の作家、オダサカこと織田作之助。そのオダサクファンが集う「オダサク倶楽部」との縁で、映画監督の金秀吉さんと出会いました。彼はオダサクを題材にした映画づくりを構想中。この夏、製作プロジェクトがスタートしました。どんな作品になるのか、今から楽しみです。

映画といえば…。特に同世代の男性にお勧めしたいのが、この秋ロードショー公開される『カーテンコール』。先日、試写会があり、かつて映画青年だった私が何度も落涙した作品です。原案は第6回なにわ大賞・秋田光彦さん、監督は『半落ち』の佐々部清さん。この作品は、「お父さんあなたの昭和は幸せでしたか」と、問いかけています。

代表幹事 野村 育郎

2月 一般例会
「ほんまもんの大阪」再発見！
2/24



▲様々な視点で大阪が語られ、大阪のポテンシャルの高さを再確認。

今年は大大阪80周年。大阪のまちが「日本が一番美しい都市」と言われ、モダンシティの文化が花開き、最も輝いていた時代。今回は、9月に東京・渋谷で『大・大阪博覧会』の開催を企画されている「東急百貨店」販売促進部部長の上根弘之氏にお越しいただき、大阪ルネッサンスにこだわって活動されている各界の方々とともに、「ほんまもんの大阪」を語りあつて頂きました。

さて「ほんまもんの大阪」とは…、いつも現状を嘆き、美辞麗句で終わるのですが今回の企画は秋の『大・大阪博覧会』、東京での大きなイベントがあります。一番大事なのはミッション（使命）では無いでしょうか。誇りを忘れず自信を持ち、あの大大阪の時代を取り戻す精神が必要であると実感した月例会でありました。

■パネリスト／順不同
北辻稔氏（月刊大阪人編集長・大阪都市協会）
船越幹央氏（大阪歴史博物館学芸員）
上根弘之氏（東急百貨店営業推進室 販売促進部部長）

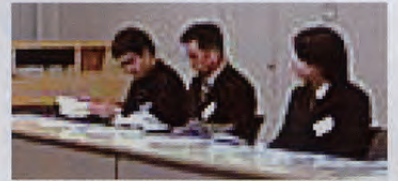
徳光正子氏（花外楼 若女将）
野杵育郎（当会代表幹事）

※コーディネーターは、マーケティングチームの原テルキが務めました。

文／なにわ創信舎 原テルキ

3月 一般例会
ギフトショー見学&会員PR
3/17

3月16日～18日、マイドームおおさかで開催された「大阪ギフトショー」に、本年も当会が出席しました。それに合わせて、開催2日目に会場見学&月例会を企画しました。



▲ビジネスにつながる情報を入手しようと、聞き入る参加者。

月例会の内容は実務的なものとし、会員間でビジネスをして頂く上での基礎的な情報交換を主に眼に置きました。ギフトショーに出展された会員を中心に7社が商品・サービスのPRを行い、カタログやサンプルなどの回覧・配布も実施。また、質疑応答による意見交換もあり、相互理解の一助となったかと存じます。



▲特別会員の森一寛さん（関西外国語大学教授）

この日は、「中之島祭り」のPRとして、森一貫氏（当会特別会員）と運営委員の方もお見えになり、今年の中の島祭りの概要等もご説明くださいました。月例会の参加者は18名と少なかつたですが、ほぼ全員に発言の機会があり、内容の濃いものになりました。

この月例会をきっかけに、会員同士のビジネスが実現すれば、嬉しく思います。

文／松本好正

4月 特別例会
元気、ハツラツ！
「ボウリング大会」
4/17

毎年恒例のボウリング大会が、「ボウルメイト京橋」で開催されました。前回同様、「OSK日本歌劇団」の団員（桜花昇さん、平松沙理さん、朝香桜子さん）と制作の方が特別参加され、より一層華やいだ雰囲気の中で28名が個人戦・団体戦の優勝を目指し、闘志を燃やして戦いました。ところが、このボウリング場には落とし穴が!!（レインに穴が開いているわけではありません。）。プロの試合が行われる事でも有名で、レイン保護と危険防止を目的にファールが設定されていたのです。その為、ファールを出す人が続出！四苦八苦しながらも楽しく2ゲームを投げ、とても良い汗をかきました。

その後、表彰式・懇親会を近くのお喋り居酒屋『居心伝 京橋東店』で行ない、終始和やかな雰囲気の中で交流を深めることが出来ました。最後になりましたが、本年度の優勝者は中村一三さんでした。おめでとうございました。

文／富屋製菓 水谷英一



▲この華やかなフォーラムは、あのヒトです！



▲たこ焼きトロフィーを受け取る中村さん（右）副賞は、自転車でした。

6月 一般例会
中小企業の
ビジネス交流のツボ
6/16

講師には、ピクデザイン事務所・代表取締役の山田悦央氏をお招きしました。「モノ作りにはデザインなどの企画をする人間と、販売などに携わる人間が存在するが、両者が同じ目線で商品開発と販売企画に取り組まなければ売れない」と、モノ作りに係わる人のスタンスからお話しになりました。なんでかと思っております。もし、それはバランスであり、商品開発は一人（一社）では出来ないであろうことだそうです。「最終的に物が売れないければ、独り善がりにはか過ぎない。そのためには携わる人間がそれぞれの立場で、リスクを持つ事が必要」というお話も…。

土産物では、「近所に配る」という本来の目的から、「自分が欲しいから、自分が家で食べたいから」と、購買の動機が大きく変化していることにも着目。土産物は今まで以上に美味しさの追求が必要であることを強く指摘されました。ほんま、その通りやわあ。

なにわ名物開発研究会もどんどん進化を遂げてまっせエ。今後色々な商品を開発し販売していくには、「各社・各企業がビジネスの交流を活発にして、同じ視点の目的と思考をもって、連携しながら消費者の目線でマーケティングを考え、していく事が大切である」つちゅうこつてすな。「世界のなにわ」となるために、これからが本番ですわ！ 大変ためになる月例会でした。

文／ARS 日野泰秀

